

ク ロ ー バ ー

Clover

VOL.02

2012年夏号



株式会社 さち コーポレーション
グループホーム さち

ホーム長のご挨拶



こんにちは。昨年今年と本当に暑いですね。みなさんは何とか夏を乗り切れそうですか？私ごとですが、オリンピックもあり眠れない暑い夜が続いています。それはさちの入居者の方も同じく、テレビの前に張り付いて、声を出しながら応援されています。テレビに映る選手を見ていると、日本人の選手は、礼で始まり礼で終わる。相手への気遣い、思いやりのスポーツマン精神、これらは急に今からできることではありません。おそらく、先祖代々からの「躰」から自然に備わってきているのではないのでしょうか。また、さまざまなハンディを乗り越えてメダルを獲得していくその姿は、日本人の心の集約ではないかなと誇りに思う大会でした。

お盆を機に季節も変わります。みなさん、体調にはくれぐれもお気をつけくださいね。

グループホームさちホーム長 さちより



ホーム長の放浪紀 第2回 『どろめ・・・の続き』

室戸岬の海岸に約三十張りのテント、溢れ出た人はビニールシートを敷き、大きな砂浜一面に老若男女、飲めや歌えの宴会騒ぎ、舞台では赤い大杯、そして歌謡ショー、飲みすぎて顔を真っ赤にし、へべれけで寝ている人、とにかくもうみんな笑ってる！寝ている！歌っている！海岸の中心まで歩いて行くと、なんだこれはっ！「PTA」と書かれたテントでどろめ汁の販売、どろめ酢味噌の販売などされており、シラスのてんこ盛り、傍では柄杓とぐつぐつの大鍋の湯気が眼に留まります。

「あれ観てごらん」と指差す先には、若い女性が赤い5合の杯を一気飲みしています。それはそれは旨そうに。周りでは、もう飲み終わったのか地べたに座り込み、応援している大勢の観衆と杯を飲み終えるタイムを計っている審査員がいました。反対側では大杯に一升の酒が注ぎこまれ、男性が我先にと一気飲みしています。そう、ここではどれだけ早く、そしてどれだけ美味しくように綺麗に飲むかを競う大会なのでした。近年では県外や、なんと外国からもこの大会に参加する方がみえるそうです。参加者はお酒を飲んで急性肝炎にならないか、1週間前から事前検査を受けているのだとか。「この祭りの時は、家が空っぽなのが当たり前」と友人は言っていました。本当に町を上げての一大イベントで、伝統のあるお祭りのようです。（続く）

このコーナーは、グループホームさちの活動をご報告いたします。

アロマセラピーをしてもらいました（5月）

アロマセラピストの方にお越しいただき、ハンドリフレのマッサージをしていただきました。アロマの良い香りに包まれながら、きもちい〜いマッサージをしてもらい、うとうとしてしまう方もちらほらと。至福の時を過ごしました。



父の日は男同士で釣り大会！（6月）

毎年母の日はバーベキュー大会なのですが、父の日は母の日ほど盛り上がる行事が出来ず・・・で、今年は何がしたいかと男性陣に聞くと「寿司が食べたいな〜」「釣りが好きだな〜」とのお返事が。ということで、近所の寿司龍さんでお昼にお寿司をいただいた後は、そう、近くの釣り堀に行って釣り大会！結果は・・・お父さん達とっても頑張ってみえましたよ（笑）



三味線と銭太鼓の演奏会が行われました（6月）

スタッフの家族で三味線を晩年の趣味としてされている方がみえると聞き、ぜひさちで演奏会を！と交渉した結果、銭太鼓もセットにした演奏会を開いてくださいました。三味線が大好きな方の多いさちの入居者さんは大喜び！耳が遠い方も、三味線を身近でみたり、銭太鼓の華麗な動きを見つめたりと、視覚でもとっても楽しんでみえました。



さち市を開催しました（7月）

入居者の方の生きがいと、地域の方との繋がりがもっと深くなるか。そうずっと考えて出てきた「朝市」ならぬ「さち市」。JA 豊田の生き生き部会のみなさんのお力もいただき、このたび初めてさち市を開催する事ができました。当日はベテラン店員さんのおかげもあり、あっという間に用意した商品も売切れてしまいました。さち市は毎月第2土曜日の午前中に開催しますので、ぜひ一度足を運んでみてくださいね。



さちのつばゆき

ここでは、グループホームさちで聞こえたつばやいた言葉を少しずつご紹介します。

・「**あんたが運転するといつも曇るであかんわぁ**」5月のある日、中金町にあるしゃくなげ街道をドライブ中、「さっきまで晴れていたのに曇ってしまいましたね」と運転手をしていた管理者がつばやくと、すぐさま返事をしてくれたIさん。本当にそのとおりです。管理者は雨でも晴れでもない、曇り女なんです。

・「**梅は青いうちに採るんだとよく父に教えられたよ。父から梅干しの作り方を教えてもらったの**」6月に入り、さちの畑にある梅の木に青梅がそこそかなりました。収穫した後、梅干しの作り方をYさんに尋ねると、昔を懐かしみながらしみじみとお話してくださいました。こうやって、代々その家の味が受け継がれていくのですね。

・「**お客さん！この青じそ50円！安いよ〜！！！！**」7月からさちの新たな取り組みとして毎月第2土曜日の午前中に「さち市」を開催することになりました。スタッフと一緒にテントで売り子をしてくれていたFさん。初めはそんなに集まらなかったお客様もだんだんと増え始めると、とっても威勢のいい声を掛けて下さいました。おかげ様で用意した商品は全て、1時間で完売に。ありがとうございました。

さち市のご案内

先のページでもご紹介しましたが、7月より「さち市」を開催しております。JA豊田の生き生き部会のみなさんが手塩を掛けて作られた、安心・安全なその日の朝採ったばかりの無農薬野菜、入居者のみなさんで作った雑巾などを販売しております。ぜひみなさん、お立ち寄りくださいね！

日時 毎月第2土曜日 だいたい10時～11時

(完売したら終了です)

場所 グループホームさち 駐車場

次回は、8月11日、9月8日、10月13日、11月10日です。

(雨天開催、荒天時は中止となります)

拳母<ころも>見聞録 第2回

第2回目にして拳母地区からは外れてしまいますが、豊田市の小原地区に古くから続いている「小原歌舞伎」についてご紹介いたします。ちなみに小原地区は、旧小原村が平成の大合併により豊田市となった地域のことです。豊田市の最北部にあり、岐阜県と隣接している場所でもあります。拳母地区とは少し異なった、独特な山間の文化が多数存在しています。その中の一つに「小原歌舞伎」が挙げられます。

この小原歌舞伎は、江戸時代中期にももとは神社に奉納するものとして始まった『地芝居』という歌舞伎だったそうです。当時は「今年しゃ豊作だで、秋のお祭りに狂言でもやったらどうずらや」（今年は豊作だから、秋のお祭りに狂言でもやってみてはどうか）という声が集落内に起きると、神社舞台上で上演されていたそうです。そして時代が進み明治に入ると、地芝居を会得した芸達者で熱意のある人達が、それぞれの集落から集まって一座を形成し、地元はもちろん、隣接する東加茂郡や岐阜県まで上演をしていたそうです。（実は、私は以前岐阜県の恵那市というところで仕事をしていたのですが、その地域でも歌舞伎というものが文化として根付いていました。もしかすると、小原歌舞伎とも交流や何らかの繋がりがあって今日に至るのかもしれませんがね）



現在では、小原歌舞伎保存会が中心となり小原歌舞伎を若い世代にも受け継がれるよう保存・伝承に力を尽くしているそうです。

年2回、春と秋にこの小原歌舞伎の上演会を行っています。さちの入居者の中にはこの小原村出身の方がみえ、毎回観覧しています。介護の必要な方への配慮もして下さいますので、私たちも安心しております。是非一度、受け継がれる伝統芸能を心行くまでご堪能ください。

会 場	小原交流館 (豊田市永太郎町落 681-1)
T E L	0565-65-3711
開催時期	五月公演 毎年5月の最終日曜日 文化まつり公演 10月下旬の日曜日



このコーナーでは、みなさんから頂いたコラムやお便りをご紹介させて頂くコーナーです。

「あなたたちのためだよ」 豊田市 K. N

6月の初め、後頭葉の脳梗塞で、左眼の視力が落ちて歩行も困難になり入院した母（93歳）は、今、懸命にリハビリの毎日を送っている。

面会に行くと、「もうやりたくない。」「のーんびり寝てたいー。」と言う。「死んだ方がいーい・・・。」とつぶやく。

（つらいんだろうなあ。）と思う。

「がんばれば、前みたいに一人でポータブルトイレに立てるようになるよ。そうすれば退院できるよ。」「寝たきりにならないため、自分のためだよ。」と励ましていたら、隣でリハビリの順番待ちの80代と思われる女性の方が、「そりゃあ、きつーいよ。それでもがんばるのは、自分のため、よりも、あなたたちのため、子どもたちに迷惑をかけんようにー！っておもうからだよ。」

（そうだね・・・ごめんね、ありがとね・・・）

名前をよばれて、リハビリを始めようとする母の姿が、尊く思える――。

< あの唄 > 塩りん

名を呼ばれ手を引かれ義母は食堂へ消へゆく 杖を振りかへりっつ

晩年の義母は長期に渡り在宅、入所を繰り返していました。入所中面会がお昼近くになると、何度も何度も物言いたげに私を振り返りながら食堂へ連れて行かれた義母の姿が思い出されてなりません。

（上記のKNさんのお姉さんである塩りんさんから、介護経験を通した一行詩を頂きました。ありがとうございます。これからも毎号 clover で掲載させて頂きますね）

このコーナーでは、皆さまからのコラムや作文、ご感想やお知恵など、さまざまな内容をざっくばらんに掲載いたします。皆さまからのご投稿お待ちしております。

投稿先：グループホームさち（担当：神谷）

投稿方法：直接手渡しでも、FAXでもEメールでもOK！

FAX:(0565)35-0806

Email:sachi@eco.ocn.ne.jp

<癒しの時間> lesson1 桃の冷やし緑茶

真夏の高く澄んだ青空を悠然と流れる浮島のように巨大な白い入道雲。その下には深い緑で覆われた山々。麓では蝉時雨に混じって聞こえる田んぼの稲を波打たせる風の音が、苦手な夏の暑さを少しの間忘れさせてくれます。暑さは苦手でも夏バテ知らずな胃袋を持つ私はとうもろこし、桃、ぶどう、すいかと今年も夏の味覚をしっかりと堪能しています！それでは初回は私も大好きな夏の味覚の一つ、桃を使った簡単なお茶のレシピを紹介させていただきますね。

桃の冷やし緑茶・・・2人分のレシピになります。

<材料>

桃・・・八分の一切れ

入れたての煎茶・・・少し濃い目に抽出して200cc

氷・・・適量



<作り方>

- ①耐熱容器に温かい煎茶と、厚めにスライスした桃を入れます。
- ②5～8分ほど置いたら桃を取り出して氷を入れたグラスに注ぎ、スプーンなどで優しくかき混ぜて完成！

<ポイント>

あまり熟した桃を使うとえぐみが出るので、少し硬い部分を使うほうが香りも水色も綺麗です。

口にすると桃の甘い香りが広がり、その後には煎茶のマスカットフレーバーが風のように喉を通り抜け、とても爽やかな気持ちになります。桃だけでなくこれから旬の梨や秋の味覚のりんごを使用しても素敵だと思います。

簡単なので色々な果物、紅茶や中国・台湾茶などお好みの組み合わせでぜひ楽しみください。肌寒い秋の夜にりんごで作る温かいアップルシナモンティーも美味しそう・・・美しい日本の四季を五感と心で楽しみたいですね。

ご協力ありがとうございます

5月11日～8月10日の間に、いろんな方々からさちにご協力いただきました。

さわやか豊田のみなさん 佐橋澄雄さん 谷口さん
富田妙美さん 加藤敦子さん 中山銭太鼓会のみなさん
石野うめ一座のみなさん



(順不同)

ボランティアさん募集

グループホームさちではボランティアさんを募集しています。「ボランティアって何と何か出来ないといけないのでしょ？」と思う方もみえるかも知れません。確かに色々な特技を活かしてボランティアをして下さる方もみえますが、ほんの空いた時間に、入居者の方とお話しをしていただいたり、お茶を飲みがてら一緒に植物の手入れをしたり、ご飯作りを手伝っていただいたり・・・普段の生活にほんの少しのお手伝いをしていただだけでも大歓迎です。お一人でもお友達同士でお越しいただいても構いません。一緒にこれからの高齢者の生活を考えながら活動しませんか？

<担当：神谷>



編集雑記

暑い日が続きますね。暦の上では立秋を迎えましたが、それでもまだ夏が続く豊田です。一方、海の向こうロンドンでは、また違った熱さでいっぱいですね。特に今大会はサッカーや卓球など、競技として初のメダル獲得や女性選手の活躍で大賑わいですね！同じ女性として、彼女たちのがんばっている姿はとてもうれしく思いますし、また励みにもなります。来月からは、さちでは大きなイベントが続きます。みなさんに楽しんでいただけるよう、選手たちのように私たちも精いっぱい頑張りたいと思います。(まり)

発行 行/株式会社さちコーポレーション

〒471-0067 愛知県豊田市栄生町3-58 ☎0565-35-0805

<http://www.e-sachi.co.jp/>

発行責任者/神谷 幸子

発行日/2012年8月10日(発行予定月 2月5月8月11月)